

関西運動記者クラブとの懇談会

第56回西日本実業柔道団体対抗大会開催に向けての記者懇談会は、平成28年4月11日(月)、18時からホテル阪神(大阪市福島区)において開催された。関西運動記者クラブからは全国紙、ブロック紙、スポーツ紙、通信社、放送局の各スポーツ担当記者11名に出席いただいた。

当連盟からは、山本理事長をはじめ、事務局長、広報委員長、広報委員の5名が出席した。

特別ゲストとして、全日本柔道連盟強化委員・旭化成柔道部監督 中村兼三氏をお招きした。

山本理事長のあいさつの後、田中事務局長から第56回西日本実業柔道団体対抗大会の大会要項、大会組み合わせ、新人紹介などの説明を行うとともに、開催地である尼崎市が今年「市制100周年」を迎えるに当たり、今年の大会は「尼崎市市制100周年プレ記念大会」と位置付け、100周年記念の冠を付けた大会として開催するとともに、記念イベントとして大会終了後、地元の少年少女柔道教室を開催することを説明した。



特別ゲストである中村兼三氏からは「リオオリンピックに向けての日本柔道百日間計画」と題し、現在の取り組み状況、見込みなどについて説明をしていただき、その後報道各記者から活発な質疑が行われた。(説明・質疑の概要は別添のとおり)



その後の懇親会では、山本理事長の乾杯の発生後、懇親の小宴を持った。会場では、中村兼三氏を囲んでの質問、懇談の場が盛り上がり、これまで同様大変意義のある懇談会となった。

以上

中村兼三氏の説明と質疑概要

<中村氏説明>

オリンピックでは、14階級中、最低4つ、できれば6つの金をとりたい。スタートが大事で初日に金をとって、はずみをつけていきたい。もちろん、代表選手どの選手も金をとる実力とチャンスがあると認識している。

練習では精神面の強化に力をいれている。とくに、どんな状況でも逃げない、最高と最悪の状況を想定して準備し、心の隙をつくらないということである。

前日計量になってから、失格者が増えている。減量とリカバリーの方法に注意している。

個々人の、ネガティブポイントの確認と審判ルールの変更への対応にも注意していかねばならない。

練習の基本方針としては、5分間+ α を戦える体力が重要である。筋力と稽古量のバランスにも留意して進めていく必要がある。



<質疑応答>

[記者] 永瀬選手は、金メダルが取れる確率が高いと考えてよいか。また、他の選手についても、全員がかなりの確率で金メダルが取れると考えてよいか。

[中村氏] そのとおりだ。永瀬には勢いがあり、勢いが大切だと思う。永瀬は崩れないタイプの柔道であり、81kg級には、強豪選手の数が少ないのも有利だと思う。

[記者] 中村兼三監督の時代の選手と比べて、今の選手の実力はどのように評価するか。

[中村氏] 第一シード選手の勝ち方、負け方が気になる。以前は、第一シードの選手は、負けることが少なく、負けた場合でも、タイミング悪くたまたま負けたことが多かった。今の(第一シード)の選手は、淡白で、あっさり負けることが多いが、我々の時代と比べて技の切れは良くなっていると思う。

[記者] 五輪選考会で負けても五輪に選出されているが、どう思うか。今後の選考会の在り方についても考えを聞きたい。

[中村氏] ポイント制であるので良いのかなと思う。今後は選考対象の対象選手の枠を広げることとも検討していけばよいと思う。安部選手などについては、もっと議論しても良いと思う。

世界で勝っていけることをめざし、早期に強化する必要があると思う。

[記者] 井上監督の選手への接し方はどのようなものか。

〔中村氏〕情熱があり、それが選手に響いている。カリスマ性がある。

〔記者〕井上監督の情熱の原動力は何と思うか。
中村氏;柔道が好きで、好きの程度が大きいのだと思う。
研究熱心でもある。

〔安藤記者〕旭化成の選手3人はいずれも有望であるが、これからの4か月のコンディション作りは、監督としてどのように行っていくのか。

〔中村氏〕全日本の井上監督に任せている。大野選手は、力、体力が優れており、本番までの体調管理をうまくしなければならぬ。韓国選手への対策もしていかなければならぬ。羽賀選手は、技の精度を上げていくことだ。

〔記者〕海外と国内の試合では、試合に臨む意識は異なるのか。

〔中村氏〕試合スタイルは、国内外で違う。海外では、組手などの対策が必要だ。



以上